

平成23年3月31日

財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 : 900千円	
研究代表者 : 黒崎 直	所属 : 人文学部	職位 : 教授
研究題目 : 杉谷古墳群の調査と「邪馬台国の時代」の富山に関する研究		

【研究概要】

「邪馬台国の時代」から「大和政権の時代」への変遷を考える上で最重要な3~4世紀に造営された富山市杉谷古墳群は、富山平野の地域集団を統括し、出雲などの勢力とも連合した有力者層の墓域と考えられている。しかし、杉谷古墳群はこれまで十分な調査が行われておらず、未だ学術的な評価が定まっていない。中でも杉谷6号墳は、出雲地方周辺起源の墓制である四隅突出形の4号墳に隣接し、匹敵する規模をもつにもかかわらず、従来ほとんど注目されてこなかった。

近在には、国史跡の千坊山遺跡群や王塚・勅使塚古墳、さらにまた近年多数のガラス玉が発見され注目をあつめた百塚遺跡などがある。杉谷古墳群の全容を解明するとともに、これらの遺跡との比較を通じて新旧関係や階層構造などを解明し、富山平野における「国」づくりの進行過程を具体的に解明することが急がれている。

【成果要約】

「邪馬台国の時代」の富山を探る上で鍵となる杉谷6号墳の測量と発掘調査を実施した結果、長さ約50m、幅約28m、高さ2.5~3.5mの盛土構造の方墳であることが判明した。レーダ探査に基づき墳頂部を深さ約1m掘り下げたが、埋葬施設は確認されなかった。埋葬施設は古墳をつくる過程で通常よりも深い位置に築かれた可能性が高いと思われる。

古墳の年代を確定する遺物は未発見だったが、3世紀前半頃の墓ならば北陸最大級の規模である。3世紀後半以後のものでも、方墳としては北陸最大であり、学術的な重要性がさらに鮮明になった。杉谷6号墳は、百塚遺跡などで発見された墓よりも規模が大きく、富山平野を統括した王の墓と評価できる。古墳時代は前方後円墳の時代だが、出雲だけは50m級の大型方墳を築いており、弥生時代から続く出雲との関係の解明が期待される。

発掘成果は新聞各紙で報道されたほか、平成22年9月4日に一般市民向け現地説明会を開催した。現地説明会パンフレットを配布し、発掘成果を紹介するとともに、研究の重要性について広報に努めた。なお、測量及び発掘調査の学術成果については、平成23年度に調査報告書を発行すべく現在準備中である。